

編集後記

1991年新春明けましておめでとうございます。本年も読者の皆様の御健勝御活躍を編集子一同心から祈っています。

さて、創刊から数えて25年目の新年号の特集は、脳卒中の回復期以降の理学療法です。脳卒中の理学療法は診療報酬においても発症後3か月の早期加算や6か月の期間区分が新設されるなど、運動機能の回復が著しい急性期から回復期に重点が置かれすぎている感があります。しかし、むしろリハビリテーションの理念からすれば、回復期以降が重要で社会生活に向けてのさまざまな理学療法アプローチをしてこそ、理学療法の真髄と言えます。それには回復期以降の身体機能をどのようにとらえ、如何に目標を立て、どのような理学療法を選択するかの判断が求められています。

そこで伊藤氏には、脳卒中の生存率、身体機能などの長期予後について解説していただきました。氏はその中で厳格な長期予後の調査研究の必要性和その結果を把握したアプローチのたいせつさを説いています。佐々木氏は121例の自験例を基に機能再建術、手術時期、術後の理学療法について解説し、脳卒中の治療体系にこれらの手術療法が組み込まれることを強調しています。脳卒中患者が何らかの原因で再入院することを経験します



が、宮下氏にはその間歌入院の実態について症例を交えて解説していただきました。回復期以降の理学療法のポイントについて吉尾氏に、またその考えかたについて石田氏、丸田氏、白川氏、稲坂氏の四氏に述べていただきました。各氏とも患者を主体にした生活援助を基本とすべきとしており、土田氏の「とびら」と相通じるものがあり、いずれも理学療法としての care と cure への真摯な姿勢が感じられます。

本号から新たに入門講座「歩行」と講座「姿勢」とが始まります。ご期待ください。

今朝のペルシャ湾岸危機のニュースで、イラクが人質全員を解放するとの報道にほっとしましたが、国連決議の1月15日までに人類の英知を集め平和解決することを願っています。(鶴見 隆正)

理学療法ジャーナル

(第25巻 第1号)

1991年1月15日発行(毎月1回15日発行)

1部定価 1,442円(本体1,400円)

(配送料61円)

年々め予約購読料 16,440円
(本体15,961円)
(送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

☎ 113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 社内案内(03)3817-5600

本誌編集室直通(03)3817-5703

(担当:渡邊・細田)

販売部直通(03)3817-5659・5660

広告室直通(03)3817-5696

ファクシミリ(03)3815-7802

振替口座 東京 7-96693 番

印刷所 三報社印刷(株) 電話(03)3637-0005

広告申込所 (株)医薬広告 電話(03)3814-1971

• Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 1991, Printed in Japan

• 本誌に掲載された著作物の複写・転載およびデータベースへの取り込みに関する許諾権は医学書院が保有しています。

• 無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意ください。

●編集顧問●

天 児 民 和

九州労災病院名誉院長

五 味 重 春

東京都立医療技術短期大学
学長

津 山 直 一

国立身体障害者リハビリテ
ーションセンター総長

横 山 巖

七沢リハビリテーション
病院脳血管センター院長
(五十音順、以下同じ)

●編集委員●

安 藤 徳 彦

神奈川県総合リハビリテ
ーションセンター

上 田 敏

東京大学リハビリテ
ーション部

鶴 見 隆 正

高知医科大学附属病院

奈 良 勲

金沢大学医療技術短期大学

福 屋 靖 子

筑波大学

松 村 秋

東京都立医療技術短期大学

吉 尾 雅 春

協和会病院

●編集同人●

伊 藤 日出男

今 川 忠 男

宇都宮 初 夫

大喜多 潤

大 田 近 雄

大 橋 ゆかり

大 峯 三 郎

金 子 誠 喜

菊 地 延 子

木 山 喬 博

工 藤 輔 一

佐々木 伸 一

高 田 京 子

高 橋 正 明

武 富 由 雄

寺 山 久美子

富 岡 詔 弘

長 澤 隆

橋 元 隆

濱 出 茂 治

半 田 健 壽

藤 沢 しげ子

前 田 哲 男

牧 田 光 代

松 沢 博

松 下 起 士

丸 田 和 夫

丸 山 仁 司

宮 本 重 範

宮 本 省 三

矢 谷 令 昭

山 下 隆 儀

山 本 和 儀

米 田 睦 男